

平成 29 年 12 月 1 日

## 平成 29 年度信州リハビリテーション専門学校 学校自己評価報告書

学校法人 松樹学園  
信州リハビリテーション専門学校  
学校評価委員会

学校法人松樹学園信州リハビリテーション専門学校では、学校法人並びに専門学校が果たすべき社会的責任に対して学校自己評価を実施致しました。これは学校教育法の規定に基づき、教育活動その他学校運営を組織的、継続的に確認すると共に、より良い学校運営と家庭、地域との連携協力を得ながら、開かれた学校作りを目指すことを目的とし、教職員が学校の理念・目標に照らして自ら教育活動について行う評価です。本校においては平成 23 年度から取り組んでおり、今回で 7 年目となりました。

今年度も「学校自己評価」を実施すると共に、併せて「学生による授業アンケート」、「学生アンケート」及び「保護者アンケート」を実施し、評価を行う際の参考としました。

評価結果につきましては、50 項目ある自己評価の平均評価値が 4 段階評価（4：良く取り組んでいる、3：まあまあ取り組んでいる、2：あまり取り組めていない、1：全く取り組めていない）で 3.33（昨年度 3.29）となっており、昨年度とほぼ同じでした。また、各アンケートでの満足度は、学生による授業アンケートでは評価 5（満足）と 4（やや満足）の合計回答率が 86.9%（昨年度 91.2%）、学生アンケートと保護者アンケートでは 4 段階評価において、それぞれ 82.8%（昨年度 83.6%）、95.1%（昨年度 94.8%）との結果を得ました。概ね良好な結果が得られたものと判断しますが、厳しいご意見もいただきました。自由記載の内容を踏まえその改善に取り組んでまいります。

学校自己評価を行う事により、自らを振り返り、良い所は更に向上させ、問題点があれば改善・解決し、教職員各自の、そして本校の発展につながるよう努めてまいります。

## 教育方針

理学療法士として、基礎医学による人体の構造と仕組みに関する知識、臨床医学による系統別機能障害と疾病の回復過程に関する知識、専門科目と臨床実習による評価・治療体系に関する知識と技術をそれぞれ有機的に関連付けていくと共に、自己学習とグループ学習を中心として、学生が主体的に学んでいくという姿勢を育成し、免許取得をめざす。

## 教育目標

- ① 優しい心を持つ豊かな人間性とマナーや接遇を含めた深い教養を持ち、医療・保健・福祉や地域と社会に貢献できる人材を育成する。
- ② 関連職種との良好なチームワークを構築するためのコミュニケーション能力を身に付け、チームでの役割と責任を果たせる人材を育成する。
- ③ 理学療法に必要な基礎医学・臨床医学の知識と基本的技術を身に付け、高い思考力により幅広い分野で問題を解決することができる人材を育成する。

## 学校自己評価 評価対象項目別評価結果及び改善方法

評価の基準を右の表に示します。

対象は信州リハビリテーション専門学校  
教職員 10 名です。

《評価基準》	4ー良く取り組んでいる
	3ーまあまあ取り組んでいる
	2ーあまり取り組めていない
	1ーまったく取り組めていない

### 1 教育理念・目標・育成人材像等

上段：今年  
下段：昨年

	評価対象項目	評価結果と平均	
1	理念・目標・育成人材像は定められているか	3.90	3.47
		3.56	
2	学校の特徴として挙げられるものはあるか	3.50	3.30
		3.67	
3	学校の将来構想は描かれているか	3.00	
		2.67	

#### 《自己評価結果及び分析》

- ・パンフレットにも記載され明確になっており、良く反映されていることから高評価になっている。
- ・学校の特徴は強みとなるもの。数値を維持し全ての教職員が全学生に対し、同じ目標を持ち接していきたい。
- ・3では、現在大きな分岐点にあるとも言え、早目に今後の動向を決定する必要がある。

#### 《改善方法》

- ・学校の特徴として「接遇コンクール」などを開催し、対外にアピールする。
- ・将来構想、方針などが情報共有される。

上段：今年  
下段：昨年

## 2 学校運営

	評価対象項目	評価結果と平均	
4	運営方針は定められているか	3.40 3.44	3.36 3.29
5	事業計画は定められているか	3.60 3.67	
6	運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか	3.40 3.00	
7	人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか	3.50 3.22	
8	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	2.90 3.11	

### 《自己評価結果及び分析》

- ・本校の特色は、全員共通認識の下での対応といえる。その結果、効率が悪くなる傾向はあるが、特色は悪いことではない。
- ・8では、時々サーバーやPCの動きが低下したことが関連しているのではないか。PCに詳しい職員がいないと、限界があるか。

### 《改善方法》

- ・現行での情報管理、運用の見直し（例年使用するものは一括管理。授業資料はPDF管理など）
- ・PC内過去情報の整理。

上段：今年  
下段：昨年

## 3 教育活動

	評価対象項目	評価結果と平均	
9	教育目標、育成人材像は、求められる資格及び福祉・医療現場の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか	3.70 3.67	3.46 3.40
10	教育目標、育成人材像を構成する知識、人間性等は、現場の人材ニーズに照らし合わせて、到達可能なレベルとして明確に定められているか	3.40 3.22	
11	カリキュラムは体系的に編成されているか	3.40 3.56	
12	各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけがされているか	3.60 3.44	
13	授業評価の実施・評価体制はあるか	3.60 3.44	
14	教育目標の達成に向けて授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3.50 3.22	
15	成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	3.30 3.22	
16	資格取得の指導体制はあるか	3.50 3.67	

17	学生個々の特性と能力に応じた教育がおこなわれているか	3.10 3.11	
----	----------------------------	--------------	--

《自己評価結果及び分析》

- ・教育目標が明確であり、教育の方向性が定まっている。
- ・教育課程編成委員会が発足し、今後の活動が期待される。
- ・成績不良者への対応も、早期から行っており良い。
- ・臨床実習体制（クリニカルクラークシップ）の変更は順調と判断するが、結果の分析が必要。
- ・今年から早期より補習を行った。その内容や課題、国試の取り組みは各担任により方法が違い、成果が分かりにくい。

《改善方法》

- ・臨床実習体制の変更による分析を行う。
- ・教育マップを作成し、教員も学生も授業の位置づけを共有する。
- ・取り組みの内容を共有し方法を検討しながら、入学から卒業まで一貫した対応を確立する。

#### 4 教育成果

上段：今年  
下段：昨年

	評価対象項目	評価結果と平均	
18	就職率の向上が図られているか	3.70 3.44	3.03 2.89
19	退学率の低減が図られているか	2.80 2.78	
20	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	2.60 2.44	

《自己評価結果及び分析》

- ・就職率は100%を維持している。
- ・今年度の現時点では退学者は0であるが、低い評価となっている理由が判断できない。
- ・退学は、学力不足による留年を拒否する風潮（留年したら辞める）によると考える。
- ・20では、同窓会の発足により今後の向上が期待できる。

《改善方法》

- ・留年が少なくなれば、退学の低減につながる。
- ・例え進級できなくとも、留年し臨むよう目的をしっかりと植え付け育てていく。
- ・担任だけでは対応困難なケースも多く、副担任や他の教員もカバーしていく。
- ・卒後教育を充実させる。一環として、卒業生との協業を図る。

## 5 学生支援

	評価対象項目	評価結果と平均	
21	就職・進学指導に関する体制が整備され、有効に機能しているか	3.60 3.56	3.00 3.06
22	学生相談に関する体制が整備され、有効に機能しているか	3.50 3.56	
23	学生の経済的側面への支援が全体的に整備され、有効に機能しているか	2.90 3.11	
24	学生の健康管理を担う組織体制があり、有効に機能しているか	3.10 3.11	
25	課外活動に対する支援体制が整備され、有効に機能しているか	2.40 2.67	
26	学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	1.80 1.89	
27	保護者と適切に連携しているか	3.70 3.78	
28	卒業生への支援体制はあるか	3.00 2.78	

### 《自己評価結果及び分析》

- ・寮の有無は学生確保にも影響するのではないかと考える。しかし、経費面だけでなく管理や運営が難しいとも考える。
- ・23では、支援を必要とする学生の把握等から取り組まなければならない。
- ・23では、全体的に整備されているとは言えないが、兄弟姉妹・親子減免制度などの活用事例もあり、中等度と評価しても良いのではないかと考える。
- ・25では、サークルが消滅している。交通環境からも時間的余裕がないかもしれない。教員の働きかけも必要ではないかと考える。
- ・生活環境支援を厚くすることで、学生が集まりやすくなるのではないかと考える。
- ・27保護者との連携は、懇談会を定期開催し綿密と考える。
- ・学生の様子を保護者に的確に伝えるためにも、個々をより見ていく必要性を感じている。

### 《改善方法》

- ・ある高校では、近隣住民の協力を得て、民泊で遠方学生を安く受け入学生数が増加しているらしい。本校も参考にできると考える。
- ・学生寮を備えるのであれば食事付きが理想とされる。

上段：今年  
下段：昨年

## 6 教育環境

	評価対象項目	評価結果と平均	
29	施設・設備は、教育上の必要性に対応できるよう整備されているか	3.60	3.47 3.41
		3.56	
30	施設実習等について十分な教育体制を整備しているか	3.60	
		3.33	
31	防災に対する体制は整備されているか	3.20	
		3.33	

### 《自己評価結果及び分析》

- ・高評価であるが、今後は講師や学生も利用できるインターネット環境の準備が望まれる。
- ・地域の避難場所でもあり、防災体制の整備は必要。
- ・緊急時の電車以外での移動対処法を考えておく必要がある。
- ・実習施設は確保されており、施設への説明や依頼、訪問などしっかり行っている。

### 《改善方法》

- ・防災訓練には近隣の方に参加を促してきたが、ほぼ皆無であった。今後は地域の方も参加できる内容としてはどうか。
- ・インターネットを活用し、授業や自己学習に反映させる（3Dなどイメージしやすい）。

上段：今年  
下段：昨年

## 7 学生募集と受入れ

	評価対象項目	評価結果と平均	
32	学生募集活動は、適正に行われているか	3.50	3.55 3.39
		3.44	
33	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3.50	
		3.33	
34	入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	3.70	
		3.56	
35	学納金は妥当なものとなっているか	3.50	
		3.22	

### 《自己評価結果及び分析》

- ・点数が高く、適正に取り組んでいると判断する。

### 《改善方法》

- ・大学志向が強くなっている。能動的な活動で相手に伝えていくことが必要で、教育成果が伝えられる仕組みを作成する。
- ・ガイダンスに現在の2倍以上参加し、対象者と直接会う機会を増やす。
- ・高校では学校説明よりも実習・面接練習・模擬授業参加に手応えを感じる事から、PRしつつ参加していく。

上段：今年  
下段：昨年

## 8 財務

	評価対象項目	評価結果と平均	
36	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3.10 3.11	3.13 3.14
37	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3.20 3.33	
38	財務について会計監査が適正に行われているか	3.40 3.44	
39	財務情報公開の体制整備はできているか	2.80 2.67	

### 《自己評価結果及び分析》

- ・適正に行われていると理解されている。
- ・財務情報公開の体制ができ、9月末にホームページ上で一部公開され改善したが、評価されていない。

### 《改善方法》

- ・インフォメーションを行う。
- ・ホームページ上で情報公開欄を目立たせる。

上段：今年  
下段：昨年

## 9 法令等の遵守

	評価対象項目	評価結果と平均	
40	法令、設置基準等を遵守し適正な運営がなされているか	3.80 3.89	3.72 3.71
41	学則は適正かつ実情に即したものとなっているか	3.60 3.78	
42	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3.70 3.56	
43	自己評価を実施し問題点の改善に努めているか	3.60 3.56	
44	自己評価結果を公開しているか	3.90 3.78	

### 《自己評価結果及び分析》

- ・教職員が遵守している結果が点数に反映されている。また、学生に指導しやすい状況にある。
- ・学則についての喚起が徹底されている。

### 《改善方法》

- ・現状を把握すること。常に向上心を持ち継続すること。
- ・改善点は事務室に大きく貼り出し、全職員で共有し意識付けを図る。

上段：今年  
下段：昨年

## 10 社会貢献

	評価対象項目	評価結果と平均	
45	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	3.30	3.55
		3.22	
46	学生ボランティア活動を奨励し、支援しているか	3.80	3.33
		3.44	

### 《自己評価結果及び分析》

- ・休日の体育館貸し出しや、地域小学校の社会見学受け入れ等をしており良い。
- ・ボランティア活動は、経験値の少ない学生には有意義で推奨している。参加者数は昨年を上回ったが、同一学生の複数参加が多い。こちらから指名しての参加も行った。
- ・環境美化の時間を設け取り組んでおり、屋外も整然としていることは、地域の治安維持にもなっている。

### 《改善方法》

- ・同窓会で年1回以上は学校で開催する決め事を作る。
- ・ボランティアはある科目の課題とし、年に複数回経験するよう取り組む。
- ・ボランティアは教職員も同行するなど、自主参加を促し参加しやすい環境を整える。  
各ボランティア参加のメリットの伝達  
開催場所への交通手段の明確化により、行きやすい環境を整える

上段：今年  
下段：昨年

## 11 意見要望の把握及びその活用

	評価対象項目	評価結果と平均	
47	学生から意見、要望を聞く体制が整備されているか	3.40	3.20
		3.44	
48	保護者から意見、要望を聞く体制が整備されているか	3.50	3.28
		3.67	
49	地域住民等第三者から意見、要望を聞く体制が整備されているか	3.00	3.28
		2.89	
50	学生からの意見、要望を学校運営に反映させる体制が整備されているか	2.90	3.28
		3.11	

### 《自己評価結果及び分析》

- ・個人面談や保護者懇談会を行っていることから、47・48が高評価となっている。
- ・49では学校関係者評価委員会の設立により、今後は評価が上がることを期待できる。
- ・意見、要望により改善できないこともあるが、できることは積極的に取り組み改善したい。
- ・50では、意見に対する回答ができると、より向上が見込まれる。
- ・学生の意見は交通事情、場所に伴うものが多い。

### 《改善方法》

- ・できることを「長期」と「短期」に分け、可視化する。